

令和元年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業 【実践事例レポート】

- 1 報告地区 : 空知地区
- 2 事例報告学校名 : 雨竜町立雨竜小学校 (雨竜町校長会)
- 3 報告者 : 校長 野村 智久
- 4 キーワード : 小中連携による学校力の向上

1 はじめに

雨竜小学校は、町学校再編計画に基づき、平成26年度から施設一体型の小中併設校としてスタートしました。「義務教育9年間で修了するにふさわしい15歳の学力・体力・豊かな心を身に付けさせること」をねらいとして、「心身を鍛え、知を磨き、ふるさと雨竜に誇りを持つ児童生徒」の実現を目指し、施設一体型の利点を生かした小中連携の取組を通して、小・中学校の全職員が一体となった学校改善を推進しています。

2 実践の内容

(1) 「小・中学校グランドデザイン」の策定

小中連携の取組を通して学校改善を推進するためには、小・中学校の全教職員がゴールを共有することや、何をどのように取り組むかについて共通理解を図ることが重要であるから、目指す児童生徒像の実現に向けた教育課程を検討するための「小・中学校グランドデザイン」を策定するとともに、小中連携の具体的な取組を明確にしました。

「何ができるようになるか」「何を学ぶか」などの資質・能力の育成について9年間で目指す児童生徒像の実現に向け共通理解を図っています。

また、グランドデザインを踏まえ、9年間で目指す児童生徒像の実現に向けた小中連携の具体的な取組を明確にしています。



【雨竜小・中学校グランドデザイン】



【小中連携の具体的な取組 (抜粋)】

(2) 9年間の系統性を確保した教育課程の編成

「小・中学校グランドデザイン」を踏まえ、目指す児童生徒像の実現に向けた「雨竜町ふるさとキャリア教育」のカリキュラムを作成しました。作成に当たっては、9年間の系統性・連続性に配慮し、目標の実現に必要な教育内容を教科等横断的な視点で組み立てるとともに、コミュニティ・スクールによる地域との連携・協働の取組を位置付けています。

平成31年度 全国学力・学習状況調査 (児童質問紙) 【全国平均の差】	
項目	雨竜小学校
地域や社会をよくするために何をすべきか考えている	+33.0
人の役に立つ人間になりたいと思う	+4.7



【「雨竜町ふるさとキャリア教育」カリキュラム】

(3) 小中合同研修の推進

研究主題を「自らの考えを生成し、積極的に学び合う児童生徒の育成」に統一するとともに、独立行政法人教職員支援機構の次世代型教育推進センターが実施している「新たな学びに関する教員の資質能力向上のためのプロジェクト」を参考に、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を小中合同で推進しています。小中合同の「授業力向上研修」では主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のイメージの共有や、授業改善により実現したい児童生徒像の姿（ピクトグラム）を指導計画に位置付けたり、小・中学校で学習過程を統一したりするなど、全教職員の共通理解の下、授業改善の取組を推進しています。

【小中統一の学習過程を明確にした本時案】

(4) 施設一体型の利点を生かした取り組み

① 小・中学校授業交流週間の設定



【「参観メモによる協議」】

「授業力向上研修」で共有した内容を踏まえ、小・中学校の教員が互いの授業を参観し、交流する取組を定期的実施しています。異動してきた教員にとっては、早い段階で本校の授業改善に係わる取組の理解につながるとともに、日常の徐行改善の意識を高める取組となっています。

《教職員の声》

- ・様々な学級で授業を参観することで「雨竜スタイル」のイメージを持つことができました。（異動してきた教員）
- ・集団思考における「対話的な学び」では、小学校で実践してきたことが中学校につながっていることを実感できました。（小学校教員）

② 小中合同家庭学習強調週間の取組

学習習慣の定着に向け、学期に一度、小中合同の家庭学習強調週間を設定し、家庭に周知しています。取組に当たっては、小中共通の記録カードにより学年ごとに集計し、改善につなげていきます。この取組により、家庭での学習習慣の定着に成果が見られるとともに、小・中学校に兄弟姉妹が在籍する家庭では、落ち着いて学習に取り組むなど学習時間の確保につながっています。

平成31年度 全国学力・学習状況調査（児童質問紙） 【全国平均の差】	
項目	雨竜小学校
家で、自分で計画を立てて勉強している	+3.5
家で、家庭学習を1時間以上している	+8.9

【小中共通の記録カード】

3 おわりに

学校力の更なる向上に向け、引き続き全職員でゴールを共有しカリキュラム・マネジメントの充実に努める必要があります。